

親孝行の原点

高校1年

本時の指導

(1) ねらい

棄老から養老へと日本人の道德心が発達した経過を知り、姨捨山伝説をもとにその中の「難題」をクイズとして出題しグループで話し合いながら答えを考える活動を通して、親心を知り、親を思う心と敬老精神を養うことをねらいとする。

(2) 指導要領に基づく道德の内容

2－(2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。

4－(6) 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。

(3) 展開

学習活動と主な発問	教師の支援
導入・・・自分の保護者が自分の事をどう思っているかを、生徒に問いかける。	発想させるため、自分と母親などの親子のエピソードで親に心配をかけたことなどを話す。
展開 1. 自作プリント配布 2. 高齢者の扱いの歴史を説明する 3. 姨捨山伝説について生徒にメモを取らせながら、教師が語る。 4. 4～5人のグループに分ける 5. 司会、板書係り、発表係りなどの役割を決めさせる。 6. 「難題」について話し合わせ、各グループの答えを板書させる。 7. 発表係りに発表させながら伝説での難題への答えを確認してゆく。 8. 机をもとの位置に戻して感想を記入させる。	・話の要点をプリントに書き込むように指示しておく ・グループ内の係り決めはじゃんけんなどをやらせると盛り上がる。 ・板書係りが書けるよう、黒板に縦書きで記入場所を作っておく。(班の数が多くなっても同時に板書ができる) ・感想記入は各自落ち着いて書けるように、机をもとの位置に戻させる。
まとめ 棄老から養老へと人間の道德心が進化したことを理解させ、今は敬老の時代であることを認識させる。親や祖父母を敬愛することが人間としての絆を深め、より良い家庭生活につながると語る。	親に安心を与える行動を取ることが親孝行の要点であることを助言する。

資料 長野県ホームページ「県の歴史&民話」

廣池千九郎「孝道の科学的研究」

「親孝行の原点」

1. 老人の扱いの歴史

2. おばすて山

- ① 信濃国の殿様はどんな人？

- ② 出した命令は

- ③ 若いお百姓さんはどんな人

- ④ 母親のとった行動は

- ⑤ 若いお百姓さんのとった行動は

- ⑥ その後の信濃国でのできごと

3. 難題

- 一、 大きさの同じ親子の馬がいる。親と子をどうやって見分けるか。

- 二、 太さの変わらない真っ直ぐな丸太があってどちらが根元かわからない。どうやって根元を見分けるか。

- 三、 木でできた丸い玉に虫が食って曲がりくねった穴があいた。どうやってこれに糸を通せばよいか。

4. 今のあなたにできる親孝行は何ですか。
